

釜ヶ崎一九八九年度越冬

協友会
通信18会

図は1990年1月19日（金）の越冬夜まわり記録の一部、夜まわりは、4コースに分れ、午後11時から1時間ないし1時間半かけてまわる。南北コースは釜ヶ崎地域。天王寺・日本橋コースは、阿倍野・天王寺・浪速の各地域。……は回ったコース。地図の中の⊙は野宿者数。参加者34名。



1990年1月19日(金)
 天候: 曇り
 参加者: 34名



追悼

私達のなぐさめと
よろこびだった

惠理香ちゃん、
ありがとう

5月7日、急に神様は貴女を呼びました。8ヶ月の短い期間だったけれど、与えられた人生を精一ばいすばらしく生ききりました。不思議に出会う人々みんなから慕われ、愛され、そしてすべての人々を受け入れ、愛してきた惠理香ちゃん、もう神様のところに、かえっていったけれど、貴女は生きることのすばらしさと、存在することに意味のあることを、ほほえみを通して人々にうったえ、また愛と希望と励ましを残してくれました。

ほんとに／＼ありがとう。今も、これからも貴女はきつと私達が迷う時の光となって、私達の天使として、祈りつづけていると信じています。ありがとう。

(S・T)

竹平惠理香

一九八九年八月三十一日釜ヶ崎で誕生。母親、伯父伯母、こどもの里など周囲のみんなに愛されて成長していったが、一九九〇年五月七日、突然帰天。

もちきれないほどの花束を

——惠理香にささげる詩

金敏光 作

明日君に会いに行く
精一杯がんばった君に
どんな笑顔が訪れているのかな
君の額の汗は何よりも奇麗に光った
そしてその体から優しさがこぼれおちた
小さなその体のどれだけ深い愛が
この空のうえで見えていた
神様を驚かせただろうか
街を歩いているとき
風が教えてくれた
僕が考えるほど、人間は弱くないんだ
持ち切れぬほどの花束を
今、君に贈ろうと思う
何にも負けなかった君に
今、コスモスの花を贈ろう

弱った手に力を込め、
よろめく膝を強くせよ。
心おののく人々に言え。

「雄々しくあれ。恐れるな」
(イザヤ 35・3-4)

この冬も全国各地の飯場（労働者宿舎から万を越す労働者が釜ヶ崎に帰って来た。ドヤはどこも満員で、いきおい野宿を強いられる人々が急増する。凍てつく寒さの中で体力を消耗し、昨日まで働いていた人が動けなくなる。行政が準備する臨時宿泊所は二重のバラ線を引き廻らせた「収容所」そのもので、青カンするほうがましやと嫌がる労働者も少なくない。路

上強盗が暗躍し、傷を負わせて身ぐるみをはいで行く。顔を膨らし、衿や袖口を血で汚した労働者をそこかしこで見かけるようになる。全国からの支援のカンパや毛布、食糧は有難い。越冬夜まわりに参加してくれた大勢の方々も連帯のきずなを感じさせ、大きな励ましを与えてくれる。このような支援なしには、何もなし得ないであろう。

しかし、何にもまして大切にしなければならぬことは、労働者同士の連帯と彼ら自身の内に秘められた《立ち上がる力》であろう。聖書は弱い立場に置かれた人々にこそ、社会の構造悪を打ち破る力

がみなぎっていることを示し続ける。「力は弱さの中でこそ十分に発揮されるのだ」(2コリ12・9)。毛布やおむすびを配り、医療パトロールを行うときに、私たちよりも彼らの方が真の意味での力強さを持っているという確信なしに労働者と関わることは、相手の人権を侵害し、社会の差別構造を助長することになりかねない。

今日、憐みと同情をベースにした福祉的な対応は各方面で意識的になされているようであるが、一般に《弱者》と呼ばれる人々の人権と秘められたパワーに対する尊敬を土台にした社会正義の面からの対応がほとんどなされていない。に呼びかけておられる。(T・H)

もっと彼らの感性と力を信頼し、声にならない叫びと主張を謙虚に聞き取り、連帯させて欲しいという心で、奉仕活動が出来たらいいと思う。冒頭の聖書の言葉は、神は虐げられた者に自ら立ち上がる力があることを知って、このように

「行路死者・福祉行政・税金」

「行路死者・福祉行政・税金」

協友会通信・18

'89年度越冬報告目次

巻頭言①

第20回釜ヶ崎越冬活動を終えて②

'89越冬実越冬闘争から'90協友会越冬活動へ④

野宿労働者の実態⑤

各班の活動日録・「無知の罪」⑥

「行路死者・福祉行政・税金」⑧

「僕は一体、何なんだろう」⑩

「こじきちがう にほんしよきや」⑫

「柔和な謙虚に学ぶ」⑭

越冬各班の学習会⑮

越冬活動に参加して―釜ヶ崎での体験・釜日労の姿勢に学びたい・寄せ屋さんのこと⑬

協友会越冬まとめとこれから(3月18日)⑬

釜ヶ崎トピックス⑬

行旅死亡人一覧表⑭

'89越冬期の死者を追悼する⑭

越冬日録⑭

ニュース 新今宮小中学校跡地その後・出会いの家近況・山谷労働者福祉会館今夏(8月)竣工⑮

協友会通信16・17⑮

一九八九年度カンパご支援を感謝⑯

新聞切り抜き帳―「カマヤん」海渡る・無縁仏90人の冥福を祈る・外国人不法リクルート・エアガン連射夜の街騒然・天王寺公園有料化・装い新た「出会いの家」⑰

⑰

⑱

編集後記 恵里香ちゃん追悼 表紙裏

・第20回釜ヶ崎越冬活動を終えて

釜ヶ崎で生命はどうなっているか

はじめに

第20回釜ヶ崎越冬活動も3月18日、喜望の家で行なわれた集会で一応終止符を打ち、今は「アブレ地獄」の梅雨期を迎えています。寄せ場の活動は、どうしても冬の夜廻りを考えがちですが、公共事業の端境期である4月～6月は毎年仕事も少なくなる上に、ここ数年来ドヤの新改築で宿泊料が2倍3倍にもなり、不安定な生活を強いられています。「使い捨て」られ「殺されて」いる、労働者の実態にも目を向けなくてはいけないと思います。

増加する労災死

炭鉱での労災死が多かった'50年代は6千人もの人が亡くなっていました。相つぐ閉山で3千人を割ったのが'80年代初め、以降減少のみであった労災死がここ3年増え続いています。とりわけ、最大の寄せ場釜ヶ崎のある大阪は、全国最悪になっています。(P29)43%近くが建築現場で働いていた人です。又、50歳以上の人が44・5%も占めています。

るのです。アジアからの労働者の死も目立ってきています。昨年4月21日、宝塚市発注工事で2名の生き埋め事故が発生しています。(P38)小さな記事ですが、在日韓国人と韓国からの「出稼ぎ」労働者でした。深さ3m・幅5mもの穴を掘りながらも、土砂止めの矢板を入れないというまったくの手抜き工事によって殺された2人です。今年1月28日、ベランダ崩落で3人亡くなりました。61歳の人が2人釜ヶ崎の労働者で私も何度か一緒に仕事をした人でした。もう一人の重傷を負った16歳の少年は沖繩からの労働者でした。いつの時代も犠牲を強いられ、殺されていくのは、下請け労働者であり、出稼ぎ労働者であり、日雇労働者ではないのでしょうか。彼らがいなければ家も、ビルも建たないのです。汗水たらして働く者のむくわれない社会。労働者を「物」のごとく「使い捨て」てしまう現実。私たちの「豊かな社会」は何と多くの汗と血の上に成り立っているのでしょうか。

大阪市の人権感覚

天王寺公園有料化

釜ヶ崎と隣接し、労働者のいこいの場であり、生活の場でもあった天王寺公園が2月24日、有料化することによって3年ぶりに再オープンされた。(P41)当日、西尾大阪市長は「公園周辺は3年後に開港する関西国際空港への玄関口にもなる重要な地域で、公園が花と緑あふれる市民のいこいの場所となるよう望みます」と述べたが、一人当たり2.9⁹m²で欧米の都市の1割にも満たなく、東京と比較しても緑の少ない大阪に、なぜ42億円もの金を掛け、石とコンクリートで作られた公園が必要なのか。「公園全体の景観が向上し、魅力的に生まれ変わった」と建設局は云っているが、市民のいこいの場所と云うなら、見せる為の公園でなく、だれもが親しむことの出来る公園こそ本来の目的ではないだろうか。以前の天王寺公園は、釜ヶ崎の労働者も、若いカップルも子ども達も、またサラリーマンも好きなように過ごせ、自由の空間を与えてくれる場所であった。大阪府は、わずかな空間さえも管理しようとするのか。

高齢者に

65年当時、20代、30代で80%近くを占め平均年齢34歳だった釜ヶ崎の労働者も現在では、40代が37%、50代が33%と平均年齢も50歳近く。10人に一人は60歳以上と高齢化して

きている。梅雨期の「アブレ地獄」に一番しわ寄せを受けるのも彼ら高齢者である。仕事に就けない労働者の権利として「日雇労働者雇用保険」||白手帳がある。'87年3月には2万5千人の有効手帳の保持者が、'86年4月から強行された、新規に作る際の住民票の提出も、義務化と「ヤミ印紙」貼付を口実に実質的な取り上げが進み、いまや保持者は、1万5千人台にまで減少している。'88年末保持者の平均年齢は46・40歳であったのに対して取り上げられた人の平均年齢は54・7歳である。仕事に就けない高齢者、病弱者は「のたれ死」せよと大阪府・府の行政機関は、云うのであろうか。

むすびとして

今年協友会が結成されて20年に当ります。10のグループがそれぞれの特長を生かして地域での活動を行っています。街にも、一人一人の労働者にも明るい展望が見えてこないのが現実です。「落ちついてきた」と表現する人もいますが、そうでなく、バラバラにされていっていると思います。高齢化、孤独、困りの状況に無関心なこと、まさに現代日本社会の縮図でしょう。「人を人として」の地道な働きがより必要とされています。

最後に皆様方がいつも私たちの小さな働きを覚え支えて下さり感謝です。皆様方の暖かな援助で私たちの活動が行われています。

今後ともよろしくお願い致します。

'89越冬実越冬闘争から '90協友会越冬活動へ

協友会は今年（'89～'90）も釜ヶ崎越冬に取り組みました。昨年より五拠点（月・水・木・金・土）が、それぞれの方針をたて、活動しました。以下の記録は、越冬期に出された「週刊えつとう」（No.1～No.7）から抜粋し、再編集したものです。この記録を通し、越冬の意義について共に考えてくださることを心から期待します。

89年12月25日から始まった越冬実の越冬が90年1月11日に終わり、11日夜から協友会の越冬が始まりました。いわゆる「高天原景気」の好況の中で、今年の越冬は例年に比べて穏やかだったという言葉が、越冬実の打ち上げ（1月12日）の席で出ましたが、1月8日の「喪明け」を待っていたかのように、協友会の越冬が始まって第2週初日の1月18日に、天皇の政治責任に言及した本島等・長崎市長が撃たれたというニュースが、全国を走ったのでした。

数十万の人間を死に至らしめた人間の政治責任を問うた人の災禍については、全国の人が関心を持って、ここ釜ヶ崎で、労働、医療、福祉その他あらゆる面での行政の意図的怠慢の結果、毎年三〇〇人の人間が行旅死にまで追い詰められている状況に、多くの人は

無関心のままだというのが実状です。大阪は、春の「花博」開催や、新大阪国際空港開設といった開発を通じて、次代の日本に経済的センターとなることを目指して動き出していますが、そうした巨大プロジェクトを底辺で支えるのが、釜ヶ崎を中心とした、下請け労働構造であることはいうまでもありません。にもかかわらず、真に経済成長を支える人間は、たんなる労働力として周辺に追いやられているのです。

昨年12月に、大阪市が突如決定した「天王寺公園有料化」は、そうした行政・経済界の姿勢を如実に表わしたものでした。労働力として酷使された末、高齢化や、労災による病気、障害によって働く力を失った労働者は、ドヤ代の高騰によって、住む場所を奪われるばかりか、外で寝ることすら許されなくなりつつあるのです。越冬実・医療班の活動の中

協友会の越冬は、ひとりひとりの人間に、「人として」関わり合うとする精神を基本にしています。しかし、だからこそまた、人を人として扱おうとしない「殺人行政」のありかたにも、つねに批判の目を向け、労働者と共に、正義のために戦うキリスト者としての姿勢を、あらためて確認していかなければならないのではないのでしょうか。

'90年1～2月 野宿労働者の実態 ―夜まわり活動から―

(注) 地域内=釜ヶ崎地域 地域外=天王寺区, 阿倍野区, 浪速区

	天気	地域内	地域外	総数	(参加者数)	備考
1月11日(木)	晴れ	84	171	255	(26)	野宿者は全体に少ない。14日(日), 天王寺公園の有料を撤回させる市民運動集会(於大阪バプテスト教会)
1月12日(金)	曇り	105	244	349	(31)	
1月13日(土)	晴れ	63	201	264	(93)	
1月15日(月)	晴れ	66	162	228	(28)	新今宮小中校跡地に出来た施設「三徳寮」の運営について, 市民生局・自彊館理事長等と話し合う(1/23)。どう利用するかが課題。
1月18日(木)	晴れ	74	187	261	-	
1月19日(金)	曇り	92	193	285	(34)	
1月20日(土)	晴れ	66	215	281	(97)	
1月22日(月)	晴れ	45	150	195	(41)	南津守のマンション建築中に釜ヶ崎労働者3人(いずれも60歳)が作業中に死亡。1人重傷。手抜き工事が原因とわかる(1/28)。
1月25日(木)	晴れ	74	187	261	-	
1月26日(金)	晴れ	48	205	253	(38)	
1月27日(土)	曇り	29	189	218	(124)	
1月29日(月)	曇り	36	118	154	(33)	越冬実・医療連は市庁前で昨年末の臨時宿泊所の運営について抗議ビラをまく(1/30)。
2月1日(木)	曇り	67	200	267	(35)	
2月2日(金)	曇り	52	224	276	(37)	
2月3日(土)	雨	36	203	239	(100)	
2月5日(月)	晴れ	43	151	194	(25)	自彊館三徳寮開所(2/1)。他の施設は6月にオープン? (単泊施設などは運営方針きまらず, 越冬中には使用できず)。
2月8日(木)	晴れ	65	184	249	-	
2月9日(金)	晴れ	69	218	287	(49)	
2月10日(土)	曇り	70	211	281	(101)	
2月12日(月)	晴れ	27	142	169	(36)	天王寺公園有料に反対する署名第一次9,636人分を大阪市に提出(2/20)。以後話し合うことを建設局と約束する。
2月15日(木)	雨/曇り	37	195	232	(38)	
2月16日(金)	曇り	56	224	280	(32)	
2月17日(土)	晴れ	67	193	260	(89)	
2月19日(月)	雨	39	147	186	(48)	関西テレビ「アタック600」で出会いの家の様子を放映(2/20)。天王寺公園有料に反対する抗議デモを行う(2/24)。
2月22日(木)	雨	80	210	290	(30)	
2月23日(金)	雨	58	208	266	(30)	
2月24日(土)	晴れ	59	219	278	(99)	
2月26日(月)	曇り	33	197	230	(32)	ふるさとの家「ボランティア講座」はじまる(2/25)

「無知の罪」

1月15日

「こんばんは」「体のぐあいはどうですか」「ありがたい、だいじょうぶです」こんな簡単な会話でしたが、私の心には何とも言えない暖かなものが伝わってきたのです。毛布を頭からかぶり、路上に寝ておられた方が顔を出して応えて下さったその声の調子と言葉が私に明るさと清さをもたらしたのです。まわりの様子があまりにも、ひどい状態であるのどうして、あんなに美しく、清く、暖かな応答が出来るのかとても不思議に思える体験でした。数年前に「無知の罪」という言葉を書き、あまりよくわからなかった私が、少しずつ歩み始めた小さな体験の中で私が神の住まわれる人の心のすばらしさをいただく一時でした。

(T・H)

1月22日

今日は、天王寺公園を有料化にするということで、神父様より説明があり、何人かの方が、賛否の意見を出されました。なるほどなあと、賛否両方に、うなずきの部分を感じながら、出発しました。

今日で、釜ヶ崎の夜間パトロールは、何日目だろうか。冷たい夜風の中、野宿の人々とふれあい、私の心は暖かくなる。いつも私に、生命の尊さを感じさせてくれる。いつの日か、釜ヶ崎の人々も、屋根のある家が与えられましように。

今年も厳しい寒さが近づいています。神様、野宿する人々を、今年もどうか、お守り下さい。

(S・K)

*月曜夜回りでは、1月23日(木)、大阪を襲った最高気温4度という寒波の中、緊急の夜回り、毛布配布を行った。

1月29日



「今晩は。キリスト教の夜回りです。」と、横になって居る一人ひとりに声をかける、頭から毛布をかぶって返事の無い人。声をかけると驚いて飛び起きる人等、さまざまの場面に合う。その一つ一つの状況が大切なものを教えてくれる。いつもの様に声をかけた。一人の労働者は固い顔をしていた。無言のままおにぎりを手の上にのせた。体の調子を書いてみた。「ありがたい。病院に行かなければならない事はわかってる。今は行かない。体が病院に行くことを嫌がっている。ごめんね。」

病院に本人が行こうと決心するまで待つていたい。早く病院をとあせる私の心待つこととの大切さをおしえてくれた。(K・K)

2月5日

四天王寺境内を巡っている時、一人の方が我々の所に近づいてきた。「毛布をいただけですか」小さな声で気の弱そうな方である。「どうしました」ドヤに泊まっていたが出てきたとの事。「仕事に行っていますか」「よく行くよ」今日は隣の人が酔って大声でわめくので寝られなかったから出てきたとの事。よく聞いてみると中央の別館で一七〇〇円のドヤ、値が高い!! 本人は風呂もあるし、一〇〇〇〇ぐらいのドヤより得だとの事。しかし一七〇〇円を棒にふって野宿とは初めて聞いた話で、こんな野宿もあるとは…。



2月12日

二週間ぶりの釜ヶ崎、今日の学習会のテーマは、「釜ヶ崎と社会構造」。釜ヶ崎の労働者の方と一緒にあって、いろいろの運動にかかわっていらっしやる平井さんの話しを聞きました。労働者に対する国のあり方を、実体験を通して話されました。ぼくはこの話しを聞いて、非人権的で、国の好都合的なやり方にならずかしさと、腹立たしさを感しました。前々回の「天王寺公園有料化に対する問題」と合わせて、もう少し国の彼らに対する見方、考え方を換えれば、彼らの生活が少しでも変化するのでと思います。たとえ「出合いの家」が新しく生まれ変わっても、収容人数には限界があると言えましよう。そう言うことを考えれば、やはり国の考え方、国の心の変化が起こることを望まずにはいられません…。

2月19日

社会科で朝鮮と日本のかかわりを意識して一年間教えてきましたが、今日、外国人労働者について学び、日本人の一人としてやりきれない思いを感じます。

釜の労働者に対する見方と東南アジアの人々を見る目が同一であり、皮肉なことに、釜の外国人労働者が日本人に近い賃金を受けとっているというのを聞いて、何とも言えない気持ちです。

日本という国家の排外主義の考え方は、島

国日本、又天皇制というしくみの中で、醸成されていると思います。過去をふり返ると、移民の形で多くの日本人が海を越えています。それなのに、ボク等のぜいたくのおかげで、海を越えなきやならない人をつくっておいて、ボク等の国は彼等を受け入れようとしません。まず自分の生活をみつめ直すことから、外国人労働者との連帯のありかたをさぐってみたいと思う。(N・O)

2月26日

今日の勉強会は、「アメリカで物ごいは正当な表現行為として憲法で保障される」という記事に関してであった。この中で、最も貧しい者の権利をどれだけ守るかこそが憲法の原則であると言われていることに強く心打たれた。

日本では、貧しい者・弱い者は役立たずと言われ無視され、同じ人間としての見方が大變薄れている。よりかしこいより豊かな人間が尊いとされている社会の中で、貧しい弱い者は、様々な重荷を背負って生きていかざるを得ない。貧しい者も豊かな者も、弱い者も強い者も互いに手をとり合って生きていける社会に一日も早くなれるよう、人が人として生きていくことの大切さに目覚め歩んでいくという心が、この日本に生きている私たち一人一人に、今、求められていると思う。

行路死者・福祉行政・税金

1月11日

1月10日まで越冬実(第20回越冬闘争実行委員会)の夜回りで、次の日からすぐに私達の夜まわりが始まった。いい訳になるけれど、越冬実の方は結構いそがしく、こちらの夜まわりの準備ができなかったもので、今日(11)は朝からみそ汁やカイロや日誌の準備で、てんてこまいだった。

いつも「戎さん」が終われば仕事(現金仕事)がでるといわれているが、8日ごろからボチボチ仕事はできてきているようだ。でもこれ以上仕事が増えても、これ以上野宿者の数がへると思われない。

天王寺公園も無理矢理有料化するようだが、人を排除したところで、本当の解決には何もならないだろう。大阪市は御堂筋パレード↓「天王寺博覧会」↓「天王寺公園有料化」↓そして「花と緑の博覧会」と訳のわからないイベントばかり押し出して見た目だけの活

性化をはかろうとしているようだが、まちがっている。本当に良い街を作る気なら、行路死者が少しでも減るように、ていねいな福祉行政を行うべきだろう。税金を使って議員を接待するような行政ではあまり期待もできないかな。

1月18日

偶然だけど、木曜日は、天皇制と関わりのある事件が2つ起こった。一つは「天皇にも戦争責任がある」と明言した長崎の本島市長が右翼に撃たれた事である。脅迫やいやがらせの末にとうとう近距離から撃たれた。この事件は、天皇の戦争責任について論議することさえ封殺するだろうし、「天皇に逆らう奴はどうなるかわからない」といつているようなものだ。絶対ゆるされないと思う。

もう一つの事件は福岡の「伝習館訴訟」が最高裁で敗れた事だ、これは簡単にいえば、学習指導要領や教科書がどれだけ教師に拘束

力があるのかを争ったもので、結局は逆らった教師の処分は正当とされた。

これは大きな事で、改悪新指導要領が導入され、教師がこれに逆らえば簡単に処分されても仕方なくなるという事だ。

本島市長暗殺未遂事件と伝習館訴訟は、天皇制が片方では尖鋭的に直接的に進んで来ている事と、もう片方ではジワジワと教育の場で進められている事を示している。

今回は学習会の事ばかり書いてしまったけど、三角公園の回り方は難しいねえ。他の夜まわりはどうしてるのかな。いうまでもなくシノギー強盗はその場で見つけられない限りは「あんな、シノギだろ」というわけにはいかない。でも割ときれいなかっこうをしてぶらぶらと三角公園のたき火にあたってはるのはやっぱりシノギだと思う。

木曜日はリーダーが一人二人入って様子を見るだけになっている。(F)

1月25日

今回の学習会のテーマは「現場で出会う外国人労働者」と「改正入管法と外国人労働者問題」でした。木曜夜回りは日雇い労働しているメンバーが10人近くいるのでそれぞれの報告を受ける予定でしたが、他の集会和重なった為に一人だけの報告になりました。

釜ヶ崎は人夫出し飯場の大半が在日朝鮮・韓国人で韓国からの労働者は飯場に入っていたのですが最近は何に多く、また桃谷鶴橋か

ら通ってくる労働者も沢山見かけます。以前はサウジアラビア・ドイツ・フランスなどでも働いたとの人もいます。韓国の法律が変わり若い人でも自由に外国に出ることが可能になった事、親族訪問なら3ヶ月在留出来るようになったことが増加の大きな要因だと思えます。中国人も何人か見かけますが、他の寄せ場の様にフィリピン人・バングラディッシュ・

パキスタン人は、釜ヶ崎ではほとんど見かけません。6月1日をもって新しく入管法が変わろうとしています。単純労働者は当面は受け入れられない、不法就労外国人には厳格に対応すると打ち出しています。それは労働市場

への悪影響、犯罪の増加、住民との摩擦等の社会問題・人権問題の発生をもたらすからだと思います。今日、日本の繁栄がアジアの民衆の犠牲の上に成り立っているとの認識は全くありません。国際化とよく云われていますが、彼らに向けられている多くの中傷・差別・偏見に直面するとき、国際化とは裏腹に国粹化していく日本を見ることが出来ます。

2月15日

2月15日(木)、釜ヶ崎医療連絡会(医療連)が中心となって、中央区(旧南区・東区)の医療パトロールを行ない、翌日、中央区福祉

いややねん有料化、

好きやねん天王寺公園

天王寺公園の有料化を撤回させるための市民結成・決起集会が1月14日の日曜日に午後2時から大阪バプテスタ教会で開かれ、子どもの里の子ども達も含め約一五〇人の参加がありました。

市内の区役所に勤めている人、釜ヶ崎夜回りの会、天王寺公園とともに育った地元の方、部落解放運動に携わっている人と、それぞれの立場から天王寺公園の有料化に反対する意見を聴きました。

また、子どもの里の子どもたちにより「なんで夜まわりするの」という唄が歌われ、子どもたちのおっちゃんに対する暖かいまなざしといたわりにくらべて、大人たち、特に行政の冷たさを感じさせるものとなりました。集会後は天王寺公園の周りを一周するデモを行ない、「いややねん有料化、好きやねん天王寺公園」とシユプレヒコールをあげながら、地元の人々、通りがかりの市民の人達に公園有料化反対の署名と協力を呼び掛けました。

天王寺公園はわたしたちの公園です。わたしたちの公園はわたしたちで守りましょう。

事務所では医療相談を行ないました。

中央区の野宿者は、湊町再開発で住居を追われています。夜回りでは、旧南区と阪神高速道路高架下に54人の野宿者を確認。旧東区では、再開発の中でも三〇〇キロ近くのダンボールを集めて自分の「場所」を守っている寄せ屋さんたちの姿が見られました。

翌日の医療相談にいられた方は1名でした。中央区統廃合の結果、新区役所の福祉事務所は、以前よりむしろ縮小し、労働者が一人では入りにくいものになっていくことがわかりました。事務所施設も、担当者の言によれば「設計ミス」で、不十分な仕切りのため、相談活動をするにも不便とのことでした。

夜間人口四万人、昼間人口50万人という大阪中心部の行政当局の心の冷たさを見た思いがします。



「僕」は、一体、何なのだろう

1月12日

毛布なしで寝ていたおじさんは、毛布を渡すと、とても喜んでくれた。カイロを渡すと、「来てもらって、ほんとに助かった」とな

おも喜んでくれたので、思わず、もう一つカ
イロを渡してしまった。だって、ほんとに「あつ
たかい」と喜んでくれるんだから。このお
じさんの言っていた、「人間は死ぬまで働かなあ
かん」という言葉が、とてもズッシリと胸
にこたえた。七年前に骨折して、それ故、寒
い時は体にこたえるとのこと。それでもなお
明日も働くのだ！という。なにか、すごく、
僕自身が励まされた。人間にとって「働く」
とは、一体何なのだろう？

それにしても、あんな薄っぺらい毛布一枚
で路上に寝るなんて…しかも、今日は小雨が
ぱらつく天気―毛布に雨がしみ込んで、明朝
冷え込みでもしたら毛布はバリバリに凍って
しまうのではなからうか。毎晩、屋根の下で、

ベッドの上で、布団を3枚もかぶって、枕も
あって、6時間も寝ることができる「僕」は、
一体、何なのだろう…。

1月19日

年々野宿をせざるを得ない人達の置かれて
いる状況が悪くなっていくのを感じさせられ
る。

天王寺公園の有料化をはじめ、四天王寺境
内のフェンスの設置や、看板線路沿いの植込
みも下が刈上げられていたり、阪堺線今池駅
のイスもベンチ型から、片側にひじかけのつ
いた形に変わっている（そのひじかけの上に
不安定な形で乗っかって寝ている人を前回の
夜回りの折見たという事だ…）。

医療や福祉、更には労働行政等の抜本的な
改正も行わないで、小手先だけの（しかも野
宿している人々を追いつく様な）対応しか出
来ない行政のあり方。そういう政治家、役人
達の存在を許している自分自身の姿勢をいつ

も問われるこの頃である。

1月26日

前日の夜回りの際に出会ったアルコール症
のFさんと市更相（大阪市更生相談所）に相
談に行った折り、相談員に土曜日は精神科医
が来ていないので月曜日に再相談に来てくれ
と言われた。「それまで自彊館に短泊出来ない
だろうか。」と問うと、「出合いの家に泊まれ
るやろ、あそこはなかなかエーとこやんか。

あんたところもキリスト教やったら利用出来
るやろ？」と相談員が言った。この発言に対
し29日に電話で「本来ならば行政が対応しな
ければならないことを、キリスト教の他グル
プが見かねて宿泊施設をつくって泊めている
のに、出合いの家を利用しろ、といった民間
の施設に押しつけるのは筋違いではないか」
ということを抗議。市更相側は、「キリスト教
のグループがそれぞれ違うという事を知らな
かったので、そのように対応してしまっ
た。申しわけない。」と応える。しかし、行政側の
責任については回答がなかったため、今後も
同様な対応があれば、注意しなければならな
い。

本来、行政側がするべきことをしていない
結果として野宿を余儀無くされる人が存在し、
見かねて私達が夜回りをしているという事を
合わせて訴えて行く必要があると思う。

2月2日

今回も特に「南」のグループで数回、数人の警官やパトカーに出会っている。

又、野宿している人達が居る場所も例年に比べ、違いが見られる。

「花の万博」や天王寺公園有料化の問題に見られる様に、野宿を余儀なくされている人や釜ヶ崎の労働者を利用するだけ利用して、行政側の都合の悪い時はいとも簡単に排除するという図式が今も、またまた見え見えに現われている。

前回の金曜グループからの市更相の対応についての報告や、「協友会通信17」でも触れているように、我々のしている夜まわりは、あくまで行政の側の福祉の対応出来きれない部分に対し、困難の中にある人々を見かねて市民的連帯の表現として「自発的な民間活動」を行っているのであって、行政の補完ではない。

その意味で、自発的な民間活動と併せて、行政に対して必要な措置なり方策を要求してゆく働きかけも、我々がなさねばならない大切な市民的課題であると思う。

2月9日

家庭でパトロールの翌日は、子供から「昨日は、どうだった？」と質問されるので、見た事と心に残った事を話しています。「お腹がすいている人がいて、みそ汁を渡したけれど

もみそ汁だけでは、だめやねー」子どもは、「お母さん、ご飯はあるから、おにぎりしてあげたいの！」私もう思い、実行しようと思つて、小さな行動をしました。豊かな家において、こたつの中で夜食を食べても、これまでは何も感じなかった事が、今は少しずつ変わっているこの気持ちを、子ども達も同じ様に感じていてくれる。心の豊かさを求め、イエス様の姿を現実にしたいです。

子どもの祈りにも釜ヶ崎の事が、小さな祈りとして、祈られています。

2月16日

① 学習会は前回行った「ホームレスについて」というアンケートをもとに自由討議を行なった。

釜ヶ崎という街やそこに住む人々が抱えざるを得ない問題から、そうした問題・課題の解決のために、どういう取り組みが必要かという事を話し合った。又、特に、一人一人の取り組みの姿勢について問い続けながら、小さな取り組みから始める大切さについて議論した。次回の「まとめ」へと議論を引継いだ。

② 今日もパトカーに良く出くわす日であった。

又、日本橋方面では南海ガード沿いの公園を福祉の職員が回つて「病院にでも入るか？」と聞いて回つているとの事である。花の万博に向かって野宿せざるを得ない人々の排除がひそかに進められている様な感じをうける。

私達の日常の選択が問われる問題でもあると思う。

2月23日

この冬の金曜夜まわりの最後の夜。かなりの雨のせいもあつてか、参加者は数年来続けて参加してくれているルーテルの青年達と、香里カトリック教会の方達がほとんどで、新しい人は2、3人であつた。

そのせいもあつて、学習会は「まとめ」であつたが、前回の討議の続きという感じで、教会が社会や社会問題に関わるという事についてや、教会の姿勢に集中した。私達ひとりひとりが、日常生活の中でどれだけ他者の、特に弱い立場に追い込まれている人達の痛みや苦しみを自分自身のものとしてしているかが問われているのを確認し合った。最後の感想文も、かなりの方々が熱心に書いて下さった。相変わらず南コースではパトカーに行き合う。

激しい雨の中、毛布もなく、あるいは毛布を濡らしながら眠っている方々の多いのに改めて驚かされる。

土曜夜まわり日録

「いじき」「ちがう」「ほんしょき」「や」

1月13日

今年で四年目の子ども夜まわりは、1月13日に始まりました。

初めに去年夜まわりの期間中に亡くなられた28人のおじさんたちのことを思い出しながら、黙禱をささげました。

学習会では、土曜夜まわりのテーマソングである「なんで夜まわりをするの」の歌詞を追いながら、夜まわりの目的を考えあいました。そしてみんなであうたいました。

夜まわりなんかしなくてもいい社会になる日を夢みて、がんばりましょう。

1月20日

今回の学習会は、おっちゃんたちが、どんな仕事をしているのかをした。おっちゃんたちの仕事は、トビとか、仮わく大工とか、土木、雑役、その他いろいろな仕事をしている。それで、毎日、私たちがおっちゃんたちに、

お世話になってるんだなーとつくづく思った。そのほかに、ガードマンの話を、Iさんがしてくれた。Iさんは前にガードマンの仕事をしていたけど、8時間も、ポーツとしてなければならぬから、たいへんなんだそうです。私がそんな仕事をしなくてはならぬかつたら、たいくつでしょうがないんじゃないかーと思いました。

夜まわりでは、日本橋の文本（寄せ屋さんの沢山いる地域）に行きました。ダンボールでかこった所で、おっちゃんが二人いて、そのおっちゃんたちは、最近、子どもらに「こじき」とかいわれたのに、おっちゃんは、子どもらに、「わしはこじきちゃう、日本書紀やー」で、いいかえしたっていつてました。もう一人のおっちゃんは、ダンボールをあつめる前トラックの運転をしていたけど、お酒のんでのつとつたから、めんきよを、とりけされたって、いつてた。

でも、今日は、とつても元気でやさしく、

明るい人がおかつた。合計文本には、23人のおっちゃんたちがおつた。

これからも、夜まわりをして、いろいろなおっちゃんたちと、話をしたいなーと思います。（今小5年 としえ）

1月27日

今回の学習会では、みんなで寄せ屋さんの事を勉強しました。ダンボールを集めて生活している寄せ屋さん、リヤカーにダンボールを一杯に集めても、一日に一〇〇〇円から一五〇〇円位にしかありません。雨の日も風の日も寒い日も暑い日も、昼も夜も外でがんばっている寄せ屋のおっちゃん。子ども達が大好きで本をくれたり、夜回りの子ども達が来るのをチョコレートを買って待っていてくれたりと、そんな優しい寄せ屋のおっちゃん達がどうして今の寄せ屋さんの仕事をしているのか、またいつも一体どんな生活をしているのか、そして寄せ屋さんのする仕事が多分に社会になくてはならないものであるかを勉強しました。

2月3日

学習会では、おっちゃんの病気についてでした。この間、南津守で起きた事件の話もしてくれました。労働中に事故が起きて亡くなった人たちは二、三四二人くらいだそうです。労働中に四日以上、仕事を休まなければいけないケガをした人は？ 約23万人もいるそ

うです。すぐくびつくりした。そういう事故でしたケガの後遺症などで、働けなくなったりして寄せ屋をしているおっちゃん達がたくさんいるんだと思います。

おっちゃんの病気については、いつも昼間釜の中とかを歩いておっちゃんと話をしてる志村さんが話してくれた。釜の中には、結核という病気がまだいっぱい(?)ある。全国で結核は一〇〇〇人に一人だと言われているのに、釜では十人に一人のおっちゃんが結核です。結核は死因の一位だったそうですが、今は十六位になっているそうです。それでも、釜の中では、結核が死因につながる確率は高いと思う。大阪市もわかって、何でどうにかしようとしたひんのでしょうか。十人に一人が結核とわかってんの知らん顔って言うのはなんちゅうこっちゃ。体を悪くして働きに行けないおっちゃん達は、栄養のつくものも食べへん。だから、結核菌がよつてくんに。

いつになったら、釜から結核がなくなるだろうか。

2月10日

〈夜回り学習会のまとめ〉

今日(2月10日)は、久しぶりに加藤登記子の歌うメキシコからの出稼ぎ労働者を追悼した「流れ者」をかけて、人の集いを持ちました。10分すぎた7時40分ごろは、20余人の集いでした。

テーマは昨年度のつみ残し、「タイの子どもたち」に焦点をあわせました。わたしたちの生活が、釜ヶ崎のおっちゃんの労働に支えられていると同じように、またアジアの人々の働きに支えられているからです。日本とタイの関係を子どもの目線で考えてみたかったです。

この学習を通して、釜ヶ崎のおっちゃんに對すると同じ思いを持ってくれたら、大変うれしいのですが。続きは、次回(2月17日)にすることにしました。11日から12日と子どもの里のキャンプで、里の子どもたちの参加は少なかったです。でも他のグループから沢山参加してくれました。

特に宮津の暁星高校から、生徒と教師が計16人も来てくれました。夜回りのあとの感想では、短い時間でしたが、野宿する労働者の厳しさとそのやさしさをしっかりとつかまえていることが、語られました。この気持ちを忘れないでほしいと思います。

2月17日

前回(2月10日)の続きという形で「タイの子どもたち」のことを学習しました。

タイの子どもたちは小さいうちから仕事をし、それは自分たちのこづかいの為ではなく、家族の生活を支えるためであることを知りました。

「ぼく、はたらくよ」という物語を3人の子どもたちに読んでもらいました。これは、タイで一番貧しいといわれる東北地方の12歳の男の子プラコープがパンコクの工場で働かされていた話です。その後、タイの子どもたちがどんな仕事をしているのか絵をみながらその年齢の子どもたちに発表してもらいました。たとえば8歳の子どもが弟のこもりをしながら家畜の世話をしたり、15歳の女の子が朝4時に起きて水上マーケットで働いていることなどを知りました。

夜まわりの参加者と同じくらいの年齢の子どもたちが一生懸命働いていることを覚え、それはどうしてなのか一人一人が考えていきたいと思います。



柔和な謙虚さに学ぶ

1

水曜グループは釜ヶ崎地区内ではなく、隣接する鶴見橋商店街や北津守から芦原橋周辺での公園や阪神高速道路高架下の野宿労働者を対象の自転車パトロールである。すでに一年以上前から毎水曜日続けられ、2つに別れて同じメンバーが同じコースを担当している。野宿の場所はいつもの所でいつも同じ人に出会って、健康状態を確認し、スープとおにぎりサーブスをしている。病院に入った人も何人かいるが、高架下など繰返しクリーン作戦が展開されたこともあって、最近急に野宿者の数が減ったが、一体どこに移られたのか。近所の家々から洩れる電灯の暖かい光と対照的に、道路わきや公園の片隅にねむる人に出会うのはつらい。「ちびっこ広場」の藤棚の下に白髪の老人、もう60歳はとくにすぎただろう。広々とした公園を吹き抜ける北風に毛布とシートをすっぽりかぶってねておられる。

帽子をぬいで丁寧に応答され、湯気のたつたみそ汁をおいしそうにすすられる姿、彼の柔和な謙虚さに学ぶことがいっぱい。鶴見橋商店街横の公園のIさん(55歳)。結核で最近自己入院。しかし病状はよくないようだ。お酒が入っていたが、「早く死ねたらよい」と自暴自棄。「刑務所生活10回以上、病院生活も同じ、こんな自分に優しい姉がいたので、今日まで生きてこれた」と述懐されほっと暖かいものを感じる。

2

水曜夜回りも、二年目を迎えての活動に入りました。年間を通じて変わったことは、一、出合いの家の活動開始により、要入院者の搬送が夜回りの終了後では、受入時間がすぎると、一月より一〇時出発に変更しました。

二、夜回りのコースを当初より延長。南海高野線芦原駅横高速道路の高架下に常に数名が

野宿しているため、又公園の閉鎖、廃止により通れなくなった場所もあり、いられなくなつた人が分散された。

三、二年目に入って、労働福祉センターの方が二人参加された。その後、福島教会のムシエ神父他八、九人が参加されました。

夜回りを通して、高速高架下周辺には、年配の寄せ屋さん、その他は日雇いの仕事にめぐまれない人達と区別できそうです。鶴見橋商店街周辺は流動的に人が変り、高架下は概ね定着しているようです。

現在迄、要入院の人達は三人で、それぞれ出合いの家を通じて入院しています。

水曜夜回り実施報告

月日	参加者	野宿者数	入院希望者
1/ 3	4	9	0
1/10	4	15	0
1/17	4	15	1
1/31	6	10	0
2/ 7	1 3	13	0
2/14	4	9	0
2/21	5	12	1
2/28	5	10	1
	6	14	0

越冬各班の学習会日程表

月曜グループ

月日	テーマ
1月15日	オリエンテーション
1月22日	天王寺公園有料化
1月29日	アルコール問題
2月5日	高齢化問題
2月12日	釜ヶ崎と社会構造
2月19日	外国人労働者
2月26日	住宅問題
3月5日	福音と政治

金曜グループ

月日	テーマ
1月12日	パトロールのオリエンテーション
1月19日	デイパトロールを通して
1月26日	救急隊の問題
2月2日	自立プログラムについて
2月9日	むすび会について
2月16日	ホームレスの人々の問題について
2月23日	全体のまとめ

木曜グループ

月日	テーマ
1月11日	天王寺公園有料化問題
1月18日	新学習指導要領と天皇制
1月25日	現場で出会う出稼ぎ労働者
2月1日	アメリカのホームレス
2月8日	医療連と夜回り
2月15日	タイ事情
2月22日	今後の夜回りについて

土曜グループ

月日	テーマ
1月13日	なんで夜まわりするの
1月20日	釜ヶ崎の労働
1月27日	寄せ屋のおじさんの生活
2月3日	野宿労働者と病氣
2月10日	タイの子どもたちと労働
2月17日	釜ヶ崎とアジアのスラム社会
2月24日	「子どもの人権条約」



3月18日越冬まとめとこれから子どもたちが、夜まわりの学習会について報告